【資料6】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和4年1月13日

協議会名： 芦別市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フイーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
空知交通株式会社	【本町循環線】 ① 芦別駅前～あけぼの団地～芦別駅前（①コース） ② 芦別駅前～市立病院～芦別駅前（②コース）	令和2年10月1日から運行ダイヤの一部を見直した芦別温泉線は、観光施設である芦別温泉に向かう観光客や市民の利便性が確保されたことにより、1運行あたりの輸送人数が増えたため、その効果があったものと考えられる。 また、運行時間の変更を行った本町循環線①、頼城線（国道経由）、頼城線（病院経由）については、コロナ禍の影響もあり輸送人数が目標値まで達していない路線も見受けられたが、固定客の利用もあることから、引き続き利用促進を図りながら運行を維持する必要があるものと考える。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標値4．2人／1運行当たりに対し4．2人／1運行当たりであった。	・市民が安心して暮らすことができるよう通院、通勤、通学、買い物など、生活の足となる公共交通路線の維持確保を図るため、「地域公共交通計画」と「立地適正化計画」を同時期に策定し、生活交通ネットワークの構築を進めていく。 ・令和3年10月から令和4年9月までの期間において、公共交通の利用に関する記事を2回掲載し、利用促進に向けた周知（PR）を図る。
	【上芦別線】 ③ 芦別駅前～南1条東1丁目～さつき団地（国道経由） ④ 芦別駅前～市立病院～さつき団地（市立病院経由）		A 計画通り事業は適切に実施された。	C コロナ禍の影響により、輸送人員は目標値7．4人／1運行当たりに対し6．5人／1運行当たりであった。	
	【頼城線】 ⑤ 芦別駅前～南1条東1丁目～頼城（国道経由） ⑥ 芦別駅前～市立病院～頼城（市立病院経由）		A 計画通り事業は適切に実施された。	C コロナ禍の影響により、輸送人員は目標値9．1人／1運行当たりに対し7．2人／1運行当たりであった。	
	【芦別温泉線】 ⑦ 芦別駅前～市立病院～芦別温泉		A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標値6．6人／1運行当たりに対し7．5人／1運行当たりであった。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月13日

協議会名：	芦別市地域公共交通会議

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	【地域内フィーダー】 芦別市は、北海道のほぼ中央に位置しており、東西に24．96㎞、南北に48．65㎞、面積は865．04㎢と広大な土地を有している。市内にはJR根室本線が通っているほか、国道38号と国道452号の2路線と11本の道道があり、札幌市まで約110㎞、旭川市まで約40㎞の地点に立地している。人口は令和3年12月末日現在で12，430人、そのうち65歳以上人口は5，901人で高齢化率は47．5%となっている。 当市は、人口の減少及び高齢化の急速な進展が社会的問題となっているほか、広大な行政区域に集落が点在するといった地理的問題を有している。こうした中、市内バス路線を運行していた事業者が、平成19年度末ですべての路線を廃止し、その後を地元交通事業者である空知交通㈱がキラキラバスとして路線を引き継ぎ運行してきた。 しかしながら、利用者の減少に歯止めがかからず、減便による運行コストの削減を図るものの、運行収支の悪化による市及び事業者の負担が年々増加し、通院、通勤、通学、買い物など市民生活の足となる路線の維持確保が危うい状況となってきた。 このため、平成23年度に実施した市民アンケート調査及び平成24年度に実施した「地域公共交通調査事業」の結果をもとに、「地域公共交通確保維持事業」により、市及び事業者の負担の軽減と、高齢者等の交通弱者の通院や買物など生活の足を確保し、地域の実情に適した持続可能な公共交通体系を構築することを目的として、4路線の循環バス及び将来的な乗合タクシーの運行も視野に入れた中で本計画を策定したところである。 平成28年10月に旭川市、砂川市、滝川市など他市へ通院する高齢者も多いことから、JR及び地域間幹線系統（滝芦線、芦旭線）との接続に配慮しながら、利用状況を勘案し大幅な系統数や便数の見直しを行った。令和元年12月には芦別駅を中心とした芦別駅前広場が整備されたたことで、芦別駅と沿線自治体を結ぶバスの乗り入れが可能となり地域公共交通のハブ化が図られた。また、翌年10月よりJR運行ダイヤに合わせ、本市の観光施設に向かう芦別温泉線を1便増便したほか、一部路線の運行ダイヤを見直した。 しかしながら、芦旭線は利用者の減少による収支状況の悪化が著しかったことから、令和3年9月をもって廃止されたところであるが、当該路線については、沿線住民の足の確保するため3年間の芦別・新城線実証実験運行により実施しているほか、旭川市までの交通の確保についても、平日の一部便において運行されつながったところである。 地域公共交通は、地域に暮らす人々が安心して暮らすために必要不可欠であり、今後も地域住民の足の確保を図るため、新たに「地域公共交通計画」を「立地適正化計画」と併せて策定し、生活交通ネットワークの構築を進めていくものである。